

住まいの空きスペース活用WS

ニュース Vol.2

平成 23 年 12 月発行（西宮市住宅政策グループ）

【第2回テーマ】空きスペースの使い方：「楽しみ方や交流の仕掛け」「地域とのまじくり方」を考えよう！

10月より始めました「住まいの空きスペース活用WS」の第2回を表題のテーマで開催致しました。

前回（第1回）では、住まいの空きスペース活用の「理想像」について、集い場グループ、シェア住居グループそれぞれで意見を出し合い、まとめて頂きました。（下段の回りの振り返りや前号ニュースをご参照ください）

第2回の今回は、右記のプログラムの通り、簡単な第1回の振り返りの後、ワークショップメンバーでもある実際に集い場を運営されている方やシェア住居を研究されている大学生から事例紹介をして頂きました。

この3人の事例紹介で使い方のイメージを膨らませた上で、住まいの空きスペース活用の理想像の「具体的な使い方」のアイデアや意見を「楽しみ方や交流の仕掛け」「地域とのまじくり方」といった視点で出して頂きました。



・当日の様子

当日のプログラム

1. 開会
2. 前回（第1回）の振り返り
3. 先進事例紹介
安野さん（甲子園口まちづくり協議会）
丸尾さん（NPO 法人つどい場さくらちゃん）
司馬さん（武庫川女子大学 大学院生）
4. ワークショップの進め方について
5. グループ毎にワークショップ
6. 各グループ発表
7. おわりに（今日の総括と次回案内）
8. 閉会

第2回WSの概要

- ・日時：H23年10月21日(月) 午後2:30～
- ・場所：西宮市役所 南館 953 会議室
- ・参加人数：14名
（集い場G：8名、シェア住居G：6名）

前回（第1回）の振り返り

第2回の内容に入る前に、前回（第1回）の簡単な振り返りをスライドで確認しました。

集い場グループの理想像の概要

「様々な人達が、あるいは同じ世代・立場の人達が、身近で立ち寄り易く、食事ができるところで、楽しい話や悩みを共感することができ、情報も手に入る集い場」

シェア住居グループの理想像の概要

「相互に助け合える多世代や他世帯が、ある程度便利で心地よい地域の中で、交流し楽しめ、生きている実感が自立を促せるシェア住居やグループホーム」



・スライドによる前回の振り返りの様子



ワークショップメンバーによる先進事例紹介



1 甲子園口ふれあいスポットについて

安野さん（甲子園口まちづくり協議会 会長）

兵庫県の助成事業「県民交流広場事業」を活用して、地域の交流やふれあいの集い場として「甲子園口ふれあいスポット」を平成19年（2007年）3月にオープンさせました。

美味しいコーヒーや紅茶を出せるふれあい喫茶から始まり、折紙教室、手芸教室、着付け教室、中国語講座、ふれあい寄席、ベビーマッサージ教室、絵本の読み聞かせ、ふれあいバザー等を行ってきました。また、ハロウィン等の地域イベントに参加したり、高齢者向けセミナーや商店街連合会の会合場所等にも開放するなど、地域とも連携しながら集い場を運営しています。ただ、5年間の助成事業が終わったため、家賃の支払いが難しくなっているのが、現在の大きな課題です。



・安野さん発表の様子

2 つどい場さくらちゃんについて

丸尾さん（NPO 法人つどい場さくらちゃん 理事長）

介護が必要な高齢者等のために11年前に介護保険制度が始まったが、隔離傾向があり、まちらから高齢者が消えていった。家と介護施設を送迎車で往ったり来たりするだけの生活が目立ち、生きがいを感じられなくなっている要介護者・介護するご家族は少なくない。このような状況に加え、ヘルパー研修で、思いやりのないホースによる洗身を目の当たりにし、怒りと共に一念発起し、「つどい場さくらちゃん」を立ち上げました。

要介護者ご本人や介護家族の心のよりどころとなれる場所を目指して取り組みを始めました。最初は、マンション住戸で行っていましたが、近隣等との問題で、場所を今の一戸建てに移し、活動を継続しています。活動内容としては、要介護者や介護家族、サポートする人皆で出かける「お出かけタイ」や「見守りタイ」、介護関係の「講座」に加え、ビーズ手芸やレザークラフト等を行っています。また、温かい食事を囲んでのおしゃべりはかせません。

「まじくる介護」「地域とまじくる関係」を大切に活動に努め、現在では、社協や行政、大学福祉関係者、学生、地域活動者、子供、子育てママ等、皆の癒しの集い場になっています。

こういった集い場の活動は、場所さえあればやりたい人はいるはずなので、もっと普及させていけるよう取り組んでいきましょう。



・丸尾さん発表の様子

シェア住居には、大きくDIY型（Do It Yourself）と事業体介在型があり、DIY型は、入居者同士で物件を借り上げ、その賃料を負担し合い、信頼関係の中で互いにルールを作り上げていくことになります。経済的にも良いですが、関係がくずれた時のリスクもあります。一方、事業体介在型は、一般的な集合住宅の小さなトラブルや日々の管理等については、管理会社が介在する事で、リスクや負担を一定量吸収する役割を果たします。ただし、ワンルームマンションとさほど賃料は変わらなくなっています。晩婚化や非婚化、高齢化による単身世帯の増加や海外でのシェア経験者の増加、インターネットの発達によりマッチングインフラが整ったことが、昨今のシェア住居の増加につながっていると考えられます。また、「人との交流・つながり（集まって住むことの安心感）」、「既存ストックである住まいの空きスペースの活用」、「低家賃や安心感等、働く独身女性のニーズに答えた環境」に加え、「若者が多いシェアハウス住人が地域に開き、交流することによる地域の活性化」や「多世代への発展の可能性」もあり、今、社会的にもシェア住居が注目されています。東京では、築40年、50年のマンションがリノベーションされ、シェアハウスとして供給されている事例もあります。（シェアプレイス田園調布、りえんと多摩平等）尼崎市等、周辺都市でもマンションや二世帯住宅等を改修してシェアハウスにしている例も見られ、徐々に普及しつつあります。おしゃれで広いリビングや眺望の良い屋上等、共有空間に魅力のあるものや住人の顔やプロフィールが分かる掲示板や連絡板、車や自転車のシェア等、共同生活の工夫に魅力が感じられるものも沢山あります。

私自身もシェア住居に住んでおり、ゴミ当番やお風呂使用の時間帯等についてある程度のルールは決めています。細かな物の置場や冷蔵庫内の使い分けが今問題になっていたりします。



・司馬さん発表の様子

【その他の事例紹介】

上記3名による事例紹介に加え、商店街の空き店舗を活用した人形劇等の文化振興を通じた集い場（戎座人形芝居館（西宮市））や東京都世田谷区で展開されている（財）世田谷トラストまちづくりによる「地域共生のいえ支援事業」、名古屋市桜山のアトリエ・ギャラリー付きシェアハウス、また、明舞団地の県営住宅での学生誘致の取組み等、いくつかの事例紹介を追加で行いました。

1 ワークショップの進め方（意見出しの視点）

先進事例紹介でイメージを膨らませた後、以下の視点で住まいの空きスペース活用の理想像の「具体的な使い方」のアイデアや意見を出して頂きました。

意見出しの視点

- ① 集い場やシェア住居・グループホームとしての「楽しみ方や交流の仕掛け」を考える
- ② 「地域に開き・つながる工夫・アイデア（地域とのまじくり方）」を考える
- ③ 西宮市で展開すべき集い場やシェア住居・グループホームとしての「使い方」をまとめる。

2 グループワークの結果



集い場グループ

意見出し：集い場グループでは、以下のような多様な意見が出されました。

視点	意見のカテゴリ	意見・アイデア
集い場での「楽しみ方や交流の仕掛け」	食事での楽しみ方	手作りの食事を皆で楽しむ
		グループで会食をする
		一人一品持ち寄りパーティー
		昼、夜の食事会を開催し、利用者同士の交流を図る
	ものづくりでの楽しみ方	手作りのお菓子づくりで楽しむ
		工作教室を開いて楽しむ
		折紙や手芸 等
	音楽での楽しみ方	牛乳パック工作 等（専門家じゃなくてもできる参加型イベント）
		作品の展示会（できた作品は道路側等（地域側）にディスプレイする）
	バザー（不用品交換会）での楽しみ方	音楽を一緒に楽しむ（皆で音楽を聴いたり、皆で楽器を演奏したりして楽しむ）
バザーならぬ不用品交換会で楽しむ（おもちゃや古本等）（ルールを決めてやる）		
その他の楽しみ方（ミニイベント等）	自家栽培のとれとれ野菜や不用品の交換会で楽しむ	
	ハロウィンイベントの開催	
交流を促進させる空間の仕掛け	大おしゃべり大会や傾聴大会	
	ファッションアドバイスや占い 等	
	空間のテーマを持ち、それを共有できるような雰囲気づくり	
その他	広すぎない空間にし、人と人の距離感づくりを工夫する	
	普通の家にいるような雰囲気づくり（家具の雰囲気、コーヒーの香り等の感覚）	
	ほっこりできるインテリアや広さ、木の温もりが重要	
「地域とのまじり方」地域に開き・つながる工夫・アイデア	集い場の地域への情報発信（立て札等）	他の地域との交流もある集い場（神戸、尼崎、丹波、北海道 等）（ご当地産物やスイーツを取り寄せて楽しめる）
		外から見て集い場の大まかな内容が見える工夫が必要
		中の様子を見ることが出来るような造りにする（初めての人に安心感を与える）
		各年齢別、各ジャンル別の催し内容等について地域住民の方々にオープンにする
		立て札作戦（かわら版のように通りすがりの人が見やすい看板づくり）
		地域の回覧板ルートを活用した集い場のニュースや案内チラシ等の情報発信
		民生委員や自治会等の既存団体にPRして地域で集い場を広報してもらう
		インターネット等で情報を発信し、地域の方々に伝えていく
	バイト募集中ならぬ“集い場やりたい人募集”“集い場で語り合い募集”にも活用	
	地域活動への場所の開放	目的がなくても入ってみようと思わせるディスプレイ（昔の駄菓子屋的な感じ）
誰でも使えるような場所にする（できれば無料で）		
地域イベントへの参画	自治会や老人会、子供会、商店街組合、サークル活動等に場所を開放する	
	地域の人の自作の作品を飾れるギャラリースペースを設ける	
地域の人を呼び込める催しの工夫	地域のイベントに参加し地域住民と交流を図る	
	地域の祭りに参加したり、共催でウォーキングイベント等を実施する	
困り事のお手伝い	近くの公園や広場等でラジオ体操を一緒にする	
	地域のクリーン作戦に参加する（溝掃除や落ち葉拾い 等）	
コーディネーターの必要性	サロンカフェや食事会等の催しを気軽なものにして誰もが立ち寄れるようにする	
	音楽の生演奏や絵本の朗読等のプロのライブがあれば地域の方々に沢山呼び込める	
西宮市で展開するべき集い場としての使い方	催し内容について地域の人にアンケートをとるのも有効な方法の一つ（興味の把握）	
	買い物難民のお助け隊としての活動	
	食事中心の使い方	
	人や物事のマッチングや交通整理がさりげなくできるコーディネーターが必要	
	案内人（コーディネーター）の人柄や役割分担が重要	
学習型の使い方	「宮水学園」の地域版のような使い方	
	人生の先輩の得意技を若者に伝授するような使い方	
何もしなくても居られる使い方	年配者が若者に何か教わるような使い方	
	おしゃべりしなくてもいい使い方（本好きのアットホームな共有読書スペース等）	
目標設定型の使い方	何か目標を持った集い場としての使い方（オジン・オパンバンドを結成し、演奏が披露できるようになることを目指す等）	
	特技を活かした使い方	
特技を活かした使い方	料理上手な方が日替りでシェフとなるカフェや自作の作品の展示等、特技を活かした使い方	

シェア住居グループ



意見出し：シェア住居グループでは、以下のような多様な意見が出されました。

視点	意見のカテゴリ	意見・アイデア
シェア住居やグループホームでの「楽しみ方や交流の仕掛け」	楽しみ、交流するための前提	シェアの目的をある程度しっかり持って、居住者の特性を明らかにする 何か楽しいことや大変なことは皆で取り組む
	情報の共有（連絡板等）	色々な情報を共有できるシステムが必要
		情報（意思）の交換ができるホワイトボードや連絡板が必要
		毎日、日課的に自然と情報に接することができる掲示板が必要 外出時のインターネットを活用した情報交換（フェイスブックの活用等）
	日常の共同作業	食事や家事等を通じた共同作業が必要
		何か共同してやることをつくる
		ノルマ的にでも共同する作業をつくり、取り組む 多少しんどくても決まった時に決まったことをきっちりする
	ハウス内のイベント	食イベント（カレーデー、パスタデー等）
		カレンダーイベント（節分、七夕、月見等）
		それぞれの特技を活かしたハウス内の交流（外国人 ミニ英会話講座、料理 ミニ料理教室、ネイル ミニネイルサロン等）
互いの友達をつれてくる友達会等		
交流を促進するツールや設定	インターネットや携帯電話の補助的な活用	
	顔があう時間帯やスペースの設定	
	時間を問わない、時間に縛られない柔軟な交流 様々な交流を促進する『仕掛け』が必要！（住人の中、家主さん、管理会社等）	
その他（交流幅の拡大）	外（地域）へもつながっていける仲間づくり	
	シェアハウス同士の交流	
「地域とのまじり方」 地域に開き・つながる工夫・アイデア	地域と交流していくための前提	地域との窓口になる『案内人』が必要 （ハウス内交流の『仕掛け』と兼務、地域側の世話人の方、行政やNPO等） 地域側の受け入れ態勢の確認（地域と交流することの共通認識）
		地域との交流の第一歩は、自治会費の納入から 地域にそのシェアハウスやグループホームの色を知ってもらう 地域との助け合いや楽しみを共有していくための地域に向けた掲示板の設置 ただし、個人情報や犯罪につながるような掲示は控えるよう注意する
		まずは、地域のイベントに参加し、地域を知る
	地域のイベントへの参画	地域イベントのちょっとしたことのお手伝いでも良いのでスタッフとして参画する 老人会等の地域団体とシェア住居住人（グループホーム住人）が一緒に行く「旅行」
		地域の人にお世話にならないとできないことをする （菜園づくりをご教授頂きながらやる等） 世の中の人、地域の人に興味を持っていることのイベントを開催する
		地域のお祭り等の写真展を開催する ガレージ等を利用したフリーマーケットを地域に向けて行う 自宅菜園でつくった野菜を地域に向けて販売する（ガレージ等で）
	地域のお手伝い	地域の困りごとのお手伝いをする（餅つきのつき手等）
		何かあれば地域のお手伝いをする（順番等を決めておいて）
	シェア住居内に地域の人との共有の集い場をつくる	1階に住人や地域の人が行うチャレンジショップ的な空間（バーや雑貨店等）を設け、住人も地域の人も集まれる場をつくる。（集い場とのコラボレーション）
		外の情報が入る場をつくる
西宮市で展開するべきシェア住居やグループホームとしての使い方	住人の色が見え、地域と交流のある使い方	地域に住人の色が見え、地域とつながっていける使い方 住む人やその地域に合った様々な交流のあるシェア住居やグループホームとしての使い方
	空家等の柔軟な使い方	単体では活用が難しい空きスペースでも、近場のものをマッチさせ、機能分担した魅力的なシェア住居やグループホームとするなど、空家等の柔軟な使い方の工夫 そういった柔軟な住まいの空きスペース活用の講習会があればよい

3 ワークショップの様子（集い場グループ、シェア住居グループ）



4 各グループの発表

グループワーキングの後は、出た意見を互いに共有し合うため、各グループで要点の発表を行いました。

集い場グループでは、年配者の知恵を若者に伝えることや不用品の交換、ものづくり、食事、音楽などを通しての楽しみ方の意見が多く出されました。また、地域とまじくるには、掲示板等による集い場の情報発信、お祭り等の地域イベントへの参加が重要との意見が出され、**「地域版宮水学園」的な学習型の使い方**やオゾン、オバンによるバンド演奏等、**特技を活かし、目的を持って集まる使い方**や**何もしなくても居られる落ち着いた場所としての使い方**といった提案があった。合わせて**コーディネーターの必要性**についての意見も出された。

シェア住居グループでは、住人同士の紹介・生活における情報交換ができる連絡板や共同作業の必要性、住居内イベント等の**交流の「仕掛人」が重要**という意見が出されました。また、地域とまじくるには、**地域に開放した空間**をつくることや**シェア住居住人と地域をつなぐ「案内人」**が必要などといった意見が出され、**住人の色が見え、地域と交流のある使い方**をしていくことが重要との提案があった。



・集い場グループ発表の様子



・シェア住居グループ発表の様子

次回【第3回】のご案内

テーマ：各マッチングにおける「良い面」「悪い面」「各立場が求める条件」を抽出し、評価しよう！

日時：平成23年 12月12日(月) 午後1:30～

場所：西宮市 職員会館 3階大ホール (市民会館(アミティホール)の東隣り)

お問い合わせ先

西宮市役所 都市局 都市計画部 住宅政策グループ

TEL：0798-35-3778

FAX：0798-34-6638

E-mail：jyusei@nishi.or.jp